

取組2 地域医療の充実

取組の評価 3.2 概ね順調

< 取組2の基本方針 >

- 1 質の高い医療体制の確保
- 2 地域医療体制の強化
- 3 救急医療体制の確保

【取組の目的】 医療からリハビリまで、市民が安心して受診できる医療体制を整備します。

『取組』に係る社会の動向と本市の現状

1 社会の動向

- ◎ 医療費の対GDP比は、先進国の中で最も高齢者比率の高い日本が最も低い医療費となっており、医師数も人口1,000人当たりでOECD諸国の平均が3.1人であるのに対して、日本は2.2人に留まっており、医師の絶対数不足と偏在（地域格差）が問題となっている【平成20年度】。  
また、高度医療に伴う医療機器導入の負担や頻繁な医療制度改革による診療報酬減少に伴う医療収入減により、病院が経営危機や閉鎖に追い込まれるケースも見られ、国では、かかりつけ医を地域における第一線の医療機関として位置付け、入院・手術などの設備を有する医療機関との機能分化を図っている【病診連携】が、女性医師等の離職防止・復職支援や、救急医療・周産期医療体制等の整備など、地域医療を確保するため、独自の対策を講じている病院も出てきている。
- ◎ そうした中、県中東遠地域医療再生計画に基づく医師確保対策の一環として、地域に溶け込み、家族ぐるみの診療や予防医療、健康相談などに携わる『家庭医』を育成する『静岡家庭医養成プログラム』が平成22年度から開始されている。

2 本市の現状（主な取組）

- ◎ 中東遠地域における人口10万人当たりの医師数（平成22年度）は、123.4人であり、県平均の182.8人や全国平均の219.0人を大きく下回っていることから市民が安心して医療を受けられるよう、予防・健診から一次医療、二次医療、さらには在宅医療まで、切れ目のない地域医療体制の構築が必要である。
- ◎ 『保健・医療・介護構想』の具現化のため、総合的な健康支援システムの拠点として現市民病院施設を利活用し、まずは構想の核となる、外来・健診センター【地域内診療、地域連携による健診】、一般病床・回復期リハビリ及び療養病床【地域療養】を開設するとともに、休日急患診療室【一次救急医療】の医療分野を先行して整備することにより、中東遠総合医療センターや地域医療機関と連携を図ることとしている。
- ◎ 袋井市立袋井市民病院については、平成25年5月1日の「中東遠総合医療センター」開院に伴い閉院となった。また新たに、療養・回復期医療に重点を置いた袋井市立聖隷袋井市民病院を6月1日に開院し、その運営を指定管理者制度により、社会福祉法人聖隷福祉事業団に委託している。
- ◎ 中東遠総合医療センター開院後の一次救急医療体制については、袋井市医師会と協議検討を行い、平成26年度から在宅輪番方式とセンター方式を併用する方針を決定し、一次救急医療の拠点となる「袋井市休日急患診療室」の開院に向け準備を進めている。
- ◎ 病院と地域医療機関との連携強化・機能分化を進め、適切な医療を効率的に提供できる体制づくりに努めるとともに、市民に対して医療機関を適正に利用していただくよう、“市民の地域医療は市民が守り育てる”啓発活動を進めている。

『取組指標』の分析と評価結果

1 取組指標の評価 【※ 実績値は、各年度末における最新数値】 評価結果の平均値(A) 2.5

<評価基準> 4:達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 ≥ 0% 3:達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 < 0% 2:達成率 < 100%・前年比伸び率 ≥ 0% 1:達成率 < 100%・前年比伸び率 < 0%

番号	指標名	項目	現状値(計画)	H22	H23	H24	H25	H26	H27
1	市民病院における患者満足度(入院)【点】	目標値	-	77.0	77.0	80.0	80.0	80.0	80.0
		実績値	73.4	74.0	-	-	-	-	-
		達成率 伸び率	-	96.1 0.8	-	-	-	-	-
		評価	-	2	1	1	-	-	-
2	市民病院における患者満足度(外来)【点】	目標値	-	65.0	65.0	70.0	80.0	80.0	80.0
		実績値	62.3	61.0	-	-	-	-	-
		達成率 伸び率	-	93.8 ▲2.0	-	-	-	-	-
		評価	-	1	1	1	-	-	-
3	診療所から市民病院への紹介率【%】	目標値	-	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0
		実績値	55.6	60.9	65.2	65.9	-	-	-
		達成率 伸び率	-	108.7 9.5	116.4 7.0	117.6 1.0	-	-	-
		評価	-	4	4	4	-	-	-
4	市民病院から診療所への紹介率【%】	目標値	-	38.0	38.0	38.0	38.0	38.0	38.0
		実績値	36.5	38.5	35.4	52.2	-	-	-
		達成率 伸び率	-	101.3 5.4	93.1 ▲8.0	137.3 47.4	-	-	-
		評価	-	4	1	4	-	-	-

【指標に影響を与えた主な要因】

- ◎ 平成23年度以降は、市民病院における患者満足度調査を実施しないこととしたため、当該指標の数値が得られない。
- ◎ 国では“かかりつけ医”を地域における第一線の医療機関として位置付け、入院・手術等の設備を有する医療機関との機能分化を図っている（病診連携）。本市においても、症状に応じた医療機関で適切な治療が受けられるよう、紹介状等による相互連携が促進されてきており、診療所から市民病院、市民病院から診療所への紹介率ともに、増加した。特に、市民病院から診療所への紹介率については、袋井市民病院の閉院に向け、外来患者を他の医療機関へ紹介したため、増加した。

2 指標で表すことが困難な成果

- ◎ 安心できる地域医療体制を守り育てることを目指して、NPO法人とのパートナーシップにより、医療シンポジウムや安易な救急受診を控える意識の啓発活動を進めている。

『主要事業』に係る事業評価表の評価結果

1 主要事業の評価

番号	主要事業名	H24事業費(千円)	事業評価表の評価結果		
			有効性	効率性	廃止の影響
1	掛川市・袋井市新病院建設事業(新病院建設事務組合負担金)	339,300	4	4	4
2	救急医療委託事業(医師会・薬剤師会)	23,092	4	2	4
3	現病院施設利活用推進事業(総合健康センター整備事業)	41,837	4	4	4
4	中東遠看護専門学校組合負担金	63,763	4	2	4
5	地域医療啓発事業	500	3	3	3
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
評価結果の平均値(B)		3.5	3.8	3.0	3.8

『 取 組 』 の 有 効 性 ・ 必 要 性 ・ 緊 急 性 の 評 価 結 果

1 取組の有効性等の評価 評価結果の平均値 (C) 3.7

番号	評価項目	H22	H23	H24	H25	H26	H27	コメント欄
1	有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	4	4	4				◎ 中東遠総合医療センター及び袋井市立聖隷袋井市民病院の開設により、施設面での充実及び安定した質の高い医療体制の構築が図られることから有効である。 ◎ 中東遠総合医療センターと袋井市立聖隷袋井市民病院の機能分担を明確にするとともに、さらには地域の医療機関との連携を強化することにより、地域医療体制の充実が図られることから有効である。 ◎ 一次救急医療体制をセンター方式へ移行し、拠点を整備することにより、医師会を中心とした医療供給体制が強化されるとともに、利用する市民の利便性が向上することから有効である。
2	必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	4	4				◎ 病院と地域医療機関との連携強化により、“かかりつけ医（診療所）”との機能分担を推進し、適切な医療を効率的に提供できる体制づくりを推進することで、医療機関相互の紹介率向上を図っていく必要がある。 ◎ 「保健・医療・介護構想」に基づく6センター機能の拠点施設として、予防から医療、介護まで切れ目のない包括的な健康支援体制の確立が必要であり、総合健康センター整備事業を着実に進めていく必要がある。 ◎ 将来にわたり、安定期かつ持続可能な一次救急医療体制を維持するためには、センター方式への移行は有効であり、開業医のみならず市内病院勤務医などの支援を受けながら体制を構築していく必要がある。
3	緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	4	3				◎ 平成25年5月1日に中東遠総合医療センターが開院し、6月1日には聖隷袋井市民病院も開院した。 ◎ 今後は、機能分担・連携を進めながら、さらなる地域医療の充実が期待されている。 ◎ 袋井市立袋井市民病院が担っていた外科系一次救急について、中東遠総合医療センターが二次救急に特化するため、一次救急を実施する袋井市医師会への負担が増大している。持続可能な一次救急医療体制を構築するため、平成26年4月に「袋井市休日急患診療室」開設を目指しており、緊急性は高まっている。

『 取 組 』 の 総 合 評 価 と 今 後 の 展 開 方 向

1 総合評価 <評価基準> 4～3.6:順調 3.5～3:概ね順調 2.9～2:一部に改善を要する 1.9～1:全体的に改善を要する

取組の評価			コメント欄
3.2	概ね順調		◎ 平成25年5月の中東遠総合医療センターの開院に伴い、聖隷袋井市民病院や地域の医療機関との機能分担を明確に行い、地域医療体制の充実が図られる。 ◎ 中東遠総合医療センター及び総合健康センターの開設に向けて、医師不足の解消など、安定した質の高い医療体制の構築に取り組んでおり、継続して取り組む必要がある。 ◎ 病院と地域医療機関との連携強化により、“かかりつけ医（診療所）”との機能分担が推進され、適切な医療を効率的に提供できる体制づくりが推進される。 ◎ 総合健康センターの医療分野については、聖隷袋井市民病院が開院したが、健康指導センターと健康支援センター機能を整備するため、保健センター及び社会福祉協議会事務所の移転に向けた具体的な検討を進めていく必要がある。
各評価結果の平均値			
取組指標の評価結果 (A)	主要事業の評価結果 (B)	有効性等の評価結果 (C)	
2.5	3.5	3.7	

2 取組の基本方針別 今後の展開方向 <展開方向> 拡充(順調) 拡充(改善必要) 継続推進 縮小

番号	取組の基本方針	H22	H23	H24	H25	H26	H27	今後の展開方向
1	質の高い医療体制の確保	拡充	拡充	継続推進				平成25年5月、急性期に特化した中東遠総合医療センターを開院し、旧袋井市民病院施設は、療養・回復期に重点を置いた聖隷袋井市民病院を指定管理者制度により開院したことで、両病院の機能分担・連携を推進するとともに医師の確保及び医療水準の向上を実現し、適切な医療を効率的に提供できる質の高い医療体制を確保していく。
2	地域医療体制の強化	拡充	拡充	拡充				中東遠総合医療センター及び聖隷袋井市民病院と『かかりつけ医』との機能分担を行い、適切な医療を効率的に提供できる地域医療体制を充実していく。また、診療所や介護施設、保健機関とも連携し、保健から医療、介護、在宅へと切れ目のない連携体制の構築を進めていく。
3	救急医療体制の確保	拡充	拡充	拡充				在宅輪番方式から市民に分かりやすいセンター方式への移行を進め、市民が安心して利用できる救急医療体制の確保に努めていく。
4								
5								
6								

【その他留意事項】